●「赤心」継がん
Dream 五代塾 Sinbun（新聞）
GodaiJuku

第10号
発行：Dream 五代塾
吹田市千里山西5-14-17
発行責任者：理事長　川口 建

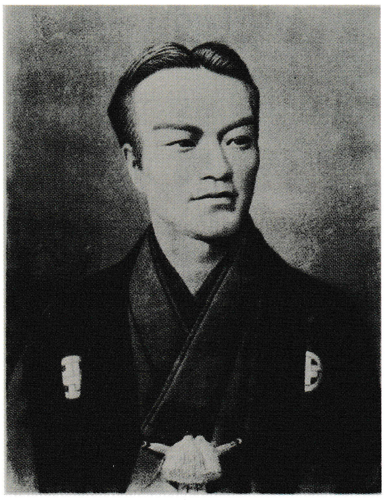
五代友厚公顕彰墓参会と「故五代氏祭文（さいもん）」

墓前に有志集う

Dream 五代塾主催で10月2日（日）10時より大阪市設南霊園にて墓参会を挙行。心をこめた集いとなりました。川口理事長は、今年は「五代さんへ恩返し」ができ、五代さんに喜んでいただけるのではないかと感謝の挨拶があり、最後に献杯と参加者全員による「赤き心」の斉唱で散会しました。二部は場所を移しミニセミナー・食事会を実施、しばし五代さんを偲びました。詳細は本紙4頁に掲載しました。

五代友厚葬儀に奉上された祭文

Dream 五代塾顧問　曾野豪夫



明治18年10月2日五代友厚の葬儀が大阪阿倍野斎場で盛大に執行された時に坐魔神社渡邉資正宮司によって真心のこもった荘厳な祭文が奉上されました。この祭文は五代龍作編『五代友厚傳』（昭和8年）、宮本又次著『五代友厚伝』（昭和56年）やその他の書籍にも引用されていませんでした。実はこの祭文の全文は五代没後10年目の明治28年（1895）に大阪で発行された『商業資料』第9号（大阪経済社刊全B4版全27頁）の二ページ目に記載されていました。（表紙の写真は本紙第2号参照）

私はこの『商業資料』を永見克也伯父から遺贈されて保有していましたが、祭文は漢字ばかりの難解な文章でもあるので公表の機会を失していました。伯父や母の祖父米吉郎が大阪で五代の長崎軍団の一人であったことは折に触れ本紙に記述してきた通りです。私が2020年春、偶々パソコンで五代友厚関係を検索していたところ、大阪市立大学（現大阪公立大学）OBの八木孝昌先生が『新・五代友厚伝』（PHP研究所）を執筆中で秋に発行予定であることを知りました。そこですぐに大阪市立大学同窓会経由で手持ちの『商業資料』のコピーを八木先生にお届けしました。

時すでに『新・五代友厚伝』の最終ゲラ段階であり増ページが不可能な状態でしたが八木先生はやり繰りをして『商業資料』について紹介をして下さいました。更に『開学の祖 五代友厚小伝』（大阪市立大学同窓会2021）において同資料に掲載してあった前田正名追悼歌を再録されました。

2021年、Dream 五代塾設立に際して川口建理事長から八木先生に顧問に就任して頂くことをお願いしたところ、こころよくお引き受け下さいました。そして我々の機関紙「Dream 五代塾 Sinbun」に読者ご承知のように五代友厚の名誉回復にかかる諸事業についての積極的な活動の情報を毎号のように寄稿して頂いており洛陽の紙価を高めて頂いております。（弊紙は会員宛無料配布ですが）

大阪市立中央図書館には『商業資料』をA4に縮小したコピーが蔵書されていますが、最近八木先生はご友人から「縮刷版」が出版されている由聞かれたそうです。同資料は大阪の明治史を知る上での貴重な資料であります。

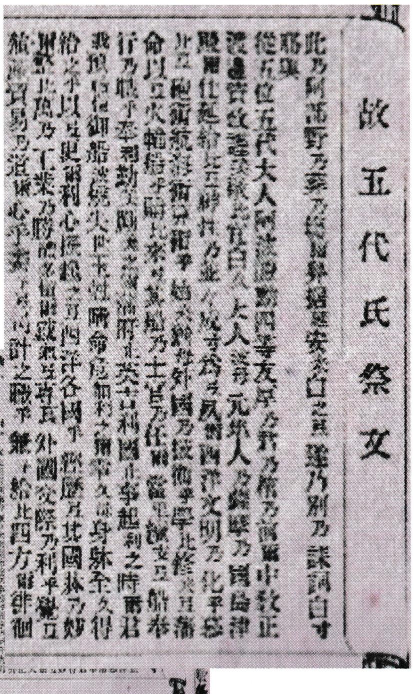
故五代氏祭文の「書き下ろし文」は、次ページに掲載しました。

次ページに坐魔神社渡邉一登権禰宜（資正宮司五代目の孫）にお願いした「書き下ろし文」を掲載しました。元の難しい文章と現代語訳はHP（「赤心」通信・展示図録集内の展示図録（17）〈阿倍野墓地と祭文〉PDFファイル）に掲載してありますのでご覧ください。

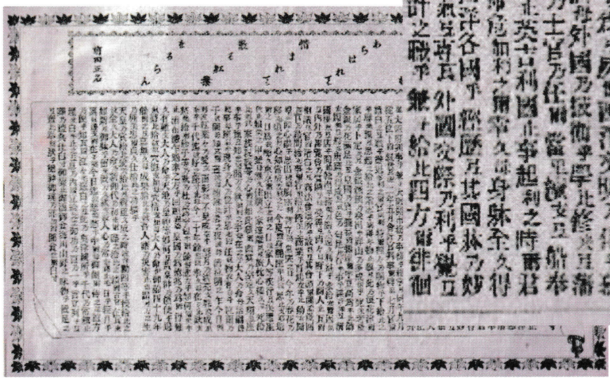
時くれば赤きこころもあらはれて
惜しまれて散る紅葉なるらん

実はDream 五代塾を設立する際に名称案の一つに「赤心 五代塾」がありましたが残念ながら取り下げられた経緯がありました。しかし「Dream 五代塾 Sinbun」の左肩をご覧下さい。赤いロゴが入れてあります。

●「赤心」継がん



故五代氏祭文



『商業資料』の中に掲載された故五代氏祭文と前田正名追悼歌（曾野豪夫氏所蔵）

故五代氏祭文

（書き下し文）

此の阿部野の葬の場に昇据ゑ安め白して遂の別の誄詞白す

耶與

従五位五代大人阿波禮勲四等友厚の君の棺の前に中教正渡邉資正謹み敬ひ宜白く　大人は元隼人の薩摩の國島津の殿に仕え給ひて神性の並々成す爲て夙に西洋文明の化を慕ひて砲術航海術算術を始め猶も外國の技術を學び修めて藩命以て火輪船を購ひ来て其船の士官の任に當り續きて船奉行の職を奉り勤み勵みしに藩府と英吉利國と事起りし時に君が預れる御船は焼失せ玉尅晴命危かりしに幸くも身躰全く得給しを以て更に利心振起して西洋各國を経歴て其國躰の妙に整ひ萬の工業の勝れたるに感きて専ら外國交際の利を覺て殖産貿易の道に心を委ねて司計の職を兼ね給ひ四方に徘徊る隨々自から天下隈無く其が美名の廣まり行く折しも在れ大内山昇る春日の光眞輝く明治の厳大御代と成にたり元年正月参與職外國事務掛の大命蒙り尋で外國事務局判事に昇り大阪府判事を兼ね大阪開市場の事務を總掌て同年九月従五位下に叙せられ二年五月會計官判事に轉り七月官に請白して職を辞退たりしに官より特に種々の賜物を下給ひしを辱み豫て思起し給ひし素志を成得む物と頓て此の浪花津に家居を卜定めて金銀鑛鋳の咲出む群山の多成るを究め考へ金銀の花満足ひて皇國の寳を彌益に彌遠に宇豆高爲むと勤め勵みて將た唐藍の得成らぬ色の匂足ひ行む事を謀こして清國掛きて店を開き輸出を務みて廣く遠く利益を求給ふに因りて内外の博覧會の賞牌をも受得て尚々も府下の商人と互に相議り官に請白して商法會議所を設けて其會頭に撰れ幾回か官の諮問給ふ事に答へ給ひ撓みし商業を再起さむと勤め勵れし御心盡を思出れば胸塞り言立ば息突しも今年の春花の移ふ頃しも心知常成さりしも今更に身罷座むとは思ひきや過にし日鳥が啼く東京に出立せりし日も家人等疾行て疾還座せと頼みし甲斐も無く住馴し家遠離りて旅枕心細くも死給ひけむ家族親族等の心には如此頓に幽冥の空遠く天翔り座む事を豫て知せば聞まく欲かりし事も在しを大人の命も語嗣べき事も座けむ現身の人の世計り思ふに任ぬ物は有じと泣雨の干ぬ間も知らに晝はも浦淋ひ暮し夜はも浦泣明し乍今日よりは紅葉葉の愛し面影は不見成なむ望月の清亮き聲は不聞成りなむ千代迄は好し座すとも今二十年餘りは幸くも在ねど歎き愁み給ふ珍子等の歎の杜の露雫包むに餘る悲さを如何にせむと浦ふれ乍過来し方を回顧れば皇國の爲億兆の爲に得難く有難き大人の命を天地の皇神等如何て黄泉神の頓使を退け掃ひ給はぬあな悔きかもあな惜きかも大人の命い御齢四十九年餘にして墓無くも成果給ひしは吾人諸の災害とや謂てまし生の極み忠に貞く仕給ひし功績を天皇の賞給ひ愛で給ひて病重く成し時はも勲四等を授給ひしは全く大人の命の新御代の初めに盡し給ひし績にこそ在らめ如斯て御躰を留め置まく欲きは人心の常なれども日を経月を累ぬべきに在ねば今日迄は悲み愁む中にも御側に侍しも誼方の便を知らに泣々も送白して此の奥津城所を千代の常舘と埋め白むとして息の内に立給ひし御功の百の一を言立列ねて葬の禮典仕白す御饗と御酒御食海川山野の味物を置足して齋ひ奉る状を随神御魂の詳かに聞食せと白す

（書き下し文）坐摩神社　権禰宜　渡邉一登

五代の生涯の偉業 「弘成館」鉱山業（一）

Dream 五代塾顧問　八木孝昌

五代友厚は数多くの事業に着手し、そのひとつひとつが新生日本の近代化に寄与しましたが、生涯の最大の事業が弘成館という社名の鉱山業であったことには疑問の余地がありません。鉱山業は明治時代になって五代が思いついたことではありません。出発点は島津斉彬が藩主であった五代の青年時代にさかのぼります。

島津斉彬藩主の鉱山業重視

幕末四賢侯の一人とされる薩摩藩島津斉彬藩主は稀代の英君で、押し寄せる欧米列強への対応策として富国と軍備強化の必要性を唱えていました。いち早く西欧の文物を導入し、近代的な工業の先駆となる集成館事業を起こしたのはそのためです。斉彬藩主には西欧近代産業の隆盛は金属の活用にあるという認識があり、その認識に基づいて、鉱山開発を進めています。『鹿児島県史料・忠義公史料』第七巻所収「市来四郎自叙伝」には次の記述があります。

斉彬公は意を採鉱の業に注がれ、金・銀・銅・鉄の如きは、殊に採掘を督せられ、中にも山ケ野金山・谷山錫山は出産多く、其利少なからず。

このような藩挙げての富国強兵政策と鉱山重視が青年期の五代に影響を与えないはずがありません。斉彬薨去から七年後の慶応元年（一八六五）、数え年三十一歳の五代は自らが藩に上申し承認された「薩摩藩英国留学」の引率者の一人として英国に密航します。

島津斉彬薩摩藩主（尚古集成館像）

ベルギー国との商社条約と棚上げ

現地で五代はベルギー貴族モンブラン伯爵と知り合い、同伯爵の仲介によってベルギーの諸工場や諸社会施設を多数見学して見聞を広めるとともに、慶応元年八月二十六日（一八六五年十月十五日）にベルギー政府と薩摩国との間の「商社条約」を結びました。（この条約は手続き上薩摩藩の批准が必要なので、この段階では仮締結です。）その第一条には、「欧羅巴人と共同結社して、薩摩の領分にある金・銅・鉄・錫・鉛等の山を開き、」種々の機械や武器などを製作し、有益なヨーロッパの産物を輸入し、国を富ませるための商社を設立するため、モンブランはこれを助け、利益はしかるべく配分する、というものでした。この商社条約に基づいて、慶応元年十二月二十二日（一八六六年二月七日）にモンブランとの間で、洋式機械の輸入と鉱山資源開発に関する契約が交わされます。その契約の最後に書かれた鉱山開発は次のようです。

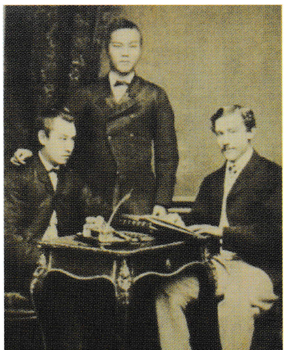
一、鉄製局　一、金山　一、銀山
一、錫山　一、石灰山　一、鉛山
右六ケ条、商社盟誓の上、土質学の達人を相雇ひ、国中普く点検して、其場所に応じ至当の業を相開くべく候。

ここには鉱山技師をヨーロッパから雇って薩摩国の鉱山開発を進めようとする明確な意思が読み取れます。

五代は慶応二年（一八六六）二月に帰国し、藩はベルギーとの条約を批准します。そしてモンブランに対して「薩摩・大隅・日向三州兼琉球国」家老連名で「当年九月、十月頃に我が国を出港し、ベルギー国その他へ和親条約締結のため使節を派遣」する旨の文書を送ります。

ところが事態は暗転します。同年六月に英国公使パークスが薩摩藩を訪問し、英国と薩摩藩の友好関係が急速に強まったことが一つの理由です。二つ目は、慶応三年七月に帰国の途についた薩摩藩使節団に同行して、鉱山技師等を伴ってベルギー貴族モンブランが薩摩を訪問しようとしたとき、モンブランについて藩内に悪い評判が立ち、モンブランの来訪が拒絶されたことです。三番目は、幕府と薩摩藩の対立関係が幕末の動乱へと突き進み、富国の課題の推進どころではなくなったことです。

こうして五代の目指した富国の課題は棚上げになってしまいました。



渡欧中の五代友厚（中央）、左通詞堀孝之、右グラバー商会ライル・ホウム（鹿児島・黎明館蔵）

明治新政府の成立と五代の下野

明治元年（一八六八）一月に明治新政府参与として大坂外国掛の要職を担当した五代は、その直後に起きた堺事件の解決に尽力して国難を救うなど、顕著な働きをしますが、翌明治二年に横浜会計官権判事として転勤になったのを機会に、同年七月に官職を辞しました。そして、大阪市東区に仮の居を構えて、大阪での経済活動を開始しました。

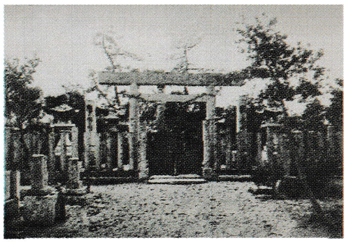
明治二年（一八六九）に大阪に設置された造幣局は明治四年（一八七一）二月十五日に創業式を開催し、金貨・銀貨の鋳造を開始しました。大阪で官職にあった時期から造幣局設置に関与していた五代は、この推移に対応するかのように、明治二年十月に大阪府西成郡今宮村（現大阪市浪速区恵美須町）に金銀分析所を開設しました。この分析所の主な事業は日本の旧金貨や旧銀貨を集めて溶解精製し、金貨・銀貨鋳造の原料となる地金（じがね）として造幣局へ納品することでした。五代はこの事業によって「巨万の富」（五代龍作『五代友厚伝』）を得ました。

鉱山業の開始

五代は明治四年（一八七一）十月に大和国（後の奈良県）吉野郡天川郷の天和山（てんなさん）を買いました。その三カ月前、明治政府は「廃藩置県」を断行していました。これは、政治と経済が藩ごとに行われる仕組みを抜本的に改革し、藩を県に統廃合して中央集権国家に転換することを意味していました。五代が幕末以来暖め続けていた鉱山業に、「廃藩置県」によってオールジャパンの舞台が与えられたのです。このことを正確に理解していた五代は、まず手始めに奈良の銅山を買いました。このあと次々に山を買ってゆきます。その資金として金銀分析所の「巨万の富」が充てられました。五代の鉱山業がいかに遠大な計画であったかが分かるというものです。（次号へ続く）

墓参会　心を込めて!! 10/2

五代友厚は東京で療養中の1885年9月20日病状さらに一変、危篤の容態を呈した。この時本籍を鹿児島から大阪に移した。大阪を死に場所としたいと予ての本懐を遂げたものであろう。22日午後6時20分松方正義が遺言を聞きとり森山茂が手記した。その後昏々と眠りに入った。五代危篤の報が天聴に入ると多年の勲功を嘉とされ、勲四等に叙し、旭日小綬章を授与されることになり、宮内大輔吉井友美が五代に代わって宮中にて拝受、来たって病室に入り端座して告げた。その後昏睡状態を続けて25日午後1時長逝した。柩は28日夜中12時頃に中之島の本邸（現日本銀行大阪支店）に帰った。10月2日12時30分柩は本邸を出発、午後2時30分頃に天王寺埋葬地（現大阪市設南霊園）に着いた。（宮本又次著『五代友厚伝』より抜粋）


大正の頃の五代友厚公のお墓全景

墓参会は川口理事長の挨拶と五代友厚公および参加者へのご報告で始まりました。報告は次の五点です。

一つは、五代が「開拓使払い下げ事件」の濡れ衣が晴らされたことです。明治14年の政変時に「開拓使官有物を安値で五代が引き受けた乃至引き受けようとした」と、新聞に怪報・誤報が報じられました。

戦後一歴史学者の論文でそれが定説化し、教科書の記述までも誤ったまま140年余り濡れ衣を晴らすことができませんでした。ところが最近になり、過去の五代友厚伝記書に誤りが多いと指摘し、一次史料を丁寧に調べ上げ過去の定説を覆し『新・五代友厚伝』（著者八木孝昌）や『五代友厚と北海道開拓使事件』（著者末岡照啓）が刊行されました。結果NHK歴史教養番組内のナレーションや大河ドラマ「青天を衝け」内のセリフ、また関西テレビのドキュメント映像内でも特集で放映紹介されることになりました。更に大阪市立大学（現大阪公立大学）とOB会のご尽力で教科書会社への修正申し入れを行った結果、早々に一社（清水書院）が事実へ書き替え対応をしました。

五代は当時の政局崩壊を案じ黙視し、時が来ればわかる、と・・五代にとってはまことに悔しい出来事であったに違いありません。

二つ目は、五代友厚の描いた竹の絵の掛け軸が妻豊子さん姪の子孫・堂本家（西宮在）から見つかったことです。墓参会に持参いただき五代さんに見て頂きました。私たちも145年前の時代を想像し、掛け軸を直接目に触れることができ感激しました。

三つ目は、五代友厚の歌「赤き心」を作って頂けたことです。作詞は八木孝昌氏（『新・五代友厚伝』の著者）、作曲は堀内圭三氏（シンガーソングライター・五代塾会員）。今日は堀内圭三さんのCD歌と一緒に参加者全員で斉唱しました。

四つ目は、すでに皆さんご存知ですが、映画「天外者」（主演三浦春馬）が一昨年の12月に全国上映され、現在も好評で三浦春馬・五代友厚ファンの方、他大勢に見て頂いています。五代友厚を沢山の方々に知って頂くことができました。

五つ目は、五代友厚・豊子縁者の方々にご参加頂けたことです。豊子さんの兄・森山茂の御子孫の親子の方、同じく弟・真さんの御子孫でお孫さん以下四世代の方々が東京・横浜・上海（赴任先）から五代・萱野両家と縁のある永見家関係者五名も参加されました。また、名古屋から会員の方も来て頂いています。友厚・豊子さんを通じいい出会いができました。

墓参会最後に「五代さんありがとう」と献杯し終了しました。その後同じ霊園内にある萱野家、森山家のお墓にお参りをしました。

二部のミニセミナーと懇親会は「五代友厚公の墓参にあたり（没137年）」と題した資料に基づき川口理事長が説明、八木顧問からは教科書記述変更検定の仕組み、堂本敏雄様からは掛け軸のお話等も説明頂き、その後は皆さんで五代さんのお話や近況などを話し、和気あいあいの楽しい時間を過ごしました。

報告・連絡

● 2022年8月26日（金）
堺事件を語り継ぐ会主催勉強会
・講演：後藤勝徳（一社歴史大陸代表）
「神戸事件ラストサムライ
瀧善三郎が体現した武士道」
Dream 五代塾より五名参加しました

● 2022年9月7日（水）
一風学舎主催セミナー
・草村克彦天誅（忠）組館長
「天誅組9月のカレンダー」
・Dream 五代塾川口建理事長
「開拓使官有物払い下げ事件」
新聞の誤報から始まる五代の濡れ衣

❖ 2022年12月26日（月）19時開演～20時30分
ドキュメント映像上映会　入場無料
・「堺事件」～時代に翻弄された若者たち～
堺事件を語り継ぐ会　制作委員会主催
語り：玉田玉秀斎
音楽：かとうかなこ　岡崎泰正
場所：フェニーチェ堺（大阪府堺市）

編集後記

昨今ほど五代さんが広瀬宰平氏に送った明治14年の汚名に対する弁明書の意義を深く問わずにはいられない気がする。「青天白日、毫モ天地ニ愧チス、又何ソ屈スル処アラン」の言葉には胸を熱くしました。

いつの世も怪報、誤報によって情報操作され、あたかもそれが真実かの如く流されていく。汚名を晴らすことなく逝ってしまわれた五代さんの汚名は140年余りの年月を要しやっと晴らされた。昨今のニュースは亡くなってしまった方は何の弁明も出来ないことをいいことに一方的である。歴史が答えを出すまでに時間がかかりすぎると日本という国が貶められたままになるのではと杞憂する。（川口由美子記）

Dream 五代塾 Sinbun（新聞）は今回区切りの10号を発行することができました。会員の皆様のご支援があってこそのことです。ありがとうございました。

●「赤心」継がん Dream 五代塾 GodaiJuku

連絡先：川口建
Mobile：080-4497-5688
Email：gogoken12345@gmail.com